

単位 mm

試験材	資格と記号	溶接方法	試験材寸法
薄板 (裏当て金なし)	基本級 N又はSN-1F	下向き (板) 突き合わせ溶接	板の厚さ 3.2
最初の記号	専門級 N又はSN-1V	立向き	150×125×2枚
N 手アーク溶接	専門級 N又はSN-1H	横向き	半自動溶接は200
SN 半自動溶接	専門級 N又はSN-1O	上向き	溶接方向は長い方です
	専門級 N又はSN-1P	パイプ (管)	開先はI型又はV型
中板 (裏当て金あり)	基本級 A又はSA-2F	下向き (板) 突き合わせ溶接	板の厚さ 9
最初の記号	専門級 A又はSA-2V	立向き	150×125×2枚
A 手アーク溶接	専門級 A又はSA-2H	横向き	半自動溶接は200
SA 半自動溶接	専門級 A又はSA-2O	上向き	溶接方向は長い方です
	専門級 A又はSA-2P	パイプ (管)	開先はV型
中板 (裏当て金なし)	基本級 N又はSN-2F	下向き (板) 突き合わせ溶接	板の厚さ 9
最初の記号	専門級 N又はSN-2V	立向き	150×125×2枚
N 手アーク溶接	専門級 N又はSN-2H	横向き	半自動溶接は200
SN 半自動溶接	専門級 N又はSN-2O	上向き	溶接方向は長い方です
	専門級 N又はSN-2P	パイプ (管)	開先はV型
厚板 (裏当て金あり)	基本級 A又はSA-3F	下向き (板) 突き合わせ溶接	板の厚さ 19
最初の記号	専門級 A又はSA-3V	立向き	150×125×2枚
A 手アーク溶接	専門級 A又はSA-3H	横向き	半自動溶接は200
SA 半自動溶接	専門級 A又はSA-3O	上向き	溶接方向は長い方です
	専門級 A又はSA-3P	パイプ (管)	開先はV型
厚板 (裏当て金なし)	基本級 N又はSN-3F	下向き (板) 突き合わせ溶接	板の厚さ 19
最初の記号	専門級 N又はSN-3V	立向き	150×125×2枚
N 手アーク溶接	専門級 N又はSN-3H	横向き	半自動溶接は200
SN 半自動溶接	専門級 N又はSN-3O	上向き	溶接方向は長い方です
	専門級 N又はSN-3P	パイプ (管)	開先はV型
全層ティグ溶接	基本級 T-1F	下向き (板) 突き合わせ溶接	板の厚さ 3.2
薄板 (裏当て金なし)	専門級 T-1V	立向き	150×125×2枚
	専門級 T-1H	横向き	溶接方向は150です
	専門級 T-1O	上向き	開先はI型又はV型
	専門級 T-1P	パイプ (管)	100A
組み合わせ溶接	基本級 C又はSC-2F	下向き (板) 突き合わせ溶接	板の厚さ 9
1~3層ティグ溶接	専門級 C又はSC-2V	立向き	150×125×2枚
最初の記号	専門級 C又はSC-2H	横向き	半自動溶接は200
C 手アーク溶接	専門級 C又はSC-2O	上向き	溶接方向は長い方です
SC 半自動溶接	専門級 C又はSC-2P	パイプ (管)	開先はV型
		150A	
組み合わせ溶接	基本級 C又はSC-3F	下向き (板) 突き合わせ溶接	板の厚さ 19
1~3層ティグ溶接	専門級 C又はSC-3V	立向き	150×125×2枚
最初の記号	専門級 C又はSC-3H	横向き	半自動溶接は200
C 手アーク溶接	専門級 C又はSC-3O	上向き	溶接方向は長い方です
SC 半自動溶接	専門級 C又はSC-3P	パイプ (管)	開先はV型

1F・2F・3Fの記号の資格は基本級といいます。最初はこの資格を取得してください。その後、専門級が受けられます。
学科試験：はじめてこの試験を受ける場合は学科試験があります。講習会を受けてから受験されますようおすすめいたします。
受験資格：基本級の試験は、1か月の経験者で15才以上、専門級の試験は、3か月の経験者で15才以上です。

試験材の見取り図

